

# 教師道場 NEWS

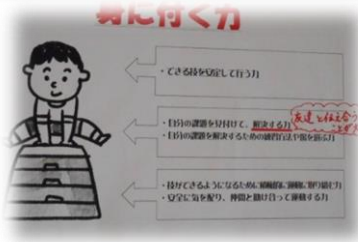
## 授業実践紹介

小学校第5学年【器械運動 「跳び箱運動」】

「自己の能力に適した課題を見付け、その解決の仕方を考えることができる。」

### 【授業改善のポイント】

◇単元で育てたい  
資質・能力の明確化



◇単元計画の明示



◇課題に応じたグループ学習



単元で身に付けていく力を児童と共有することで、児童は単元のゴールへの見通しをもって学ぶことができます。

単元計画を明示することで、児童は課題解決に向けての見通しをもち、主体的に学ぶことにつながります。

個々の課題に応じて意図的にグループ学習を取り入れることで、児童は技の行い方を理解しながら、情報を伝え合い、技能を習得していきます。

## 協議・受講記録から

- 身に付けたい資質・能力を学校として明確化して、体育の授業だけで完結するのではなく、他教科とも連携し、学校全体で授業を改善していくことが重要だと感じました。
- 校種を超えて協議することで、新しい視点で考えたり改善したりすることができると感じました。今回の提案を受け、更に授業力の向上につなげていきたいです。

## 担当教授が考える授業力向上のためのポイント

- ◆ 第一に、児童が興味関心をもち、学習目標を明確にししながら課題解決的な学習を行っていく単元の指導計画です。①個人やチームの課題の把握、②課題解決のための場や練習方法の工夫、③ディスカッション、④解決といったプロセスの中で、教師が教える場面と児童が思考・判断・表現する場면을効果的に設計していくことがポイントです。  
第二に、体育は技能差がはっきり表れる教科であるため、「運動が苦手な児童も楽しく学習できる授業づくり」、そのための「学習集団の形成（仲間づくり）」、「関わり」は重要です。そのため、互いが「小さな伸び・できた」を認め合い、喜び合うことができる関係性を築くことです。  
第三に児童が主体的に考え、行動するために「〇〇がいいね。▽▽を意識してもう一度やってみよう。」「勝ててよかったね。前回と作戦はどう変えたのかな。」「なぜうまくいかなかったのか、原因をみんなで考えてみよう。」など児童の学びを価値付ける言葉掛けや変容の要因を児童が考える問いかけを行っていくことです。【小学校担当】
- ◆ 「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、生徒の実態を基に、3年間（高等学校定時制課程は4年間）を通して、育成を目指す資質・能力を的確に把握し、それに応じたカリキュラムの構成を図ること、体育的な学校行事や保健分野（高等学校は科目保健）、また、体づくり運動や体育理論との連携を図り、それぞれの指導内容と関連付けて、各運動領域の指導の充実を図ることが重要だと考えます。【中学校・高等学校担当】